

(2) 冷温帯

ブナやミズナラなどの夏緑広葉樹林が中心となる植生帯で、秩父山地に広く分布しています。太平洋側の溪谷林を代表する植生として、シオジ林が天然記念物に指定されています。



平成 25 年 県指定「大山沢のシオジ林 (秩父市)」

(3) 中間温帯

内陸の埼玉県には、降水量の少なさや人為の影響などによって、冷温帯のブナも暖温帯のカシ類もあまり分布しない「すき間」があり、秩父盆地周辺がこれに当たります。二次的な環境が多く、植生として指定されている場所はありません。

(4) 暖温帯

カシ類やスダジイなどの照葉樹林が成立する植生帯で、低山から平野部に広く分布します。社寺林などでその片鱗を感じることができ、天然記念物に指定されている場所があります。

第3章 埼玉の動植物 (企画展示室)

天然記念物に関連する動植物の標本を一挙公開。動植物の天然記念物に注目すると、埼玉の希少種を取り巻く現状が見えてきます。

ステゴビルのレプリカやミヤコタナゴの樹脂封入標本など、初公開の資料もあります。



秩父市・坂戸市で生育地が指定されているステゴビル

第4章 人と自然との関わり (企画展示室)

暮らしとともに残されてきた天然記念物を紐解くと、人と自然との共生の歴史が見えてきます。二次的な自然を守っていくうえで欠かせない、保全の取り組みについてもご紹介します。



“焼いて守る” 国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」(さいたま市)の火入れ

第5章 過去、現在、未来 (企画展示室)

時代によって少しずつ変化してきた指定のトレンドを読み解くと、その時代の社会背景が見えてきます。天然記念物の歴史をひも解くとともに、現在どのようなものが評価され指定が進められているのか紹介し、また今後どのようなものが指定されていく可能性があるのか考えます。

埼玉で見つかったら天然記念物級！？県内にも分布する山中白亜系で見つかった恐竜化石のレプリカも、展示します。



サンチュウリュウ胸椎骨化石
原標本所蔵：群馬県立自然史博物館

100年にわたり、後世に伝えるべき人類共有の財産を探り、保護を図ってきた天然記念物。この展示をきっかけに、地域の天然記念物に改めて目を向けていただければ幸いです。

(すだ だいき・学芸員)